

セ タ ガ ヤ ボ ン テ ィ ア ネ ツ ト ワ ー ク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発! ボランティア生活発見マガジン

<https://www.otagaisama.or.jp/>

2023.06 No.230

今月のトピック

- 特 集 P.2-5

25周年を迎えたせたがやチャイルドライン

- まちの市民力 P.6

NPO法人ユメソダテ

- せたがやキラリ人 P.7

竹中 信子さん

- ミニレポート P.11

「烏山もったいないバザール」大盛況でした!

●イラストレーター むぎごめ

プロのデザイナーを目指して練習中の学生。最近はデジタルでも絵を描いています。

●わたしの世田谷

世田谷は都会としての良さと世田谷ならではの自然や多様性で色々な人が住みやすい街です。それを踏まえてこの絵にも街と自然と自分自身を取り入れてみました。



特集

25周年を迎えたせたがやチャイルドライン

18歳までの子どもからの電話を受けけるチャイルドライン。日本で産声をあげたのは世田谷でした。それから25年が経ち、全国39都道府県で68の団体がチャイルドラインを実施するまでに至りました。電話だけでなくチャットによる事業も展開されるようになっていきました。世田谷で、4月8日に行われた25周年のお祝いには「チャイルドラインの始まりをふりかえり、電話の受け手」に新しく認定されたメンバーが耳を傾けました。



チャイルドライン事始めを語る星野と天野さん

「こどもいのちのネットワーク」から始まった

四半世紀が経つと、当然メンバーの新陳代謝もあり、「初心」はだんだん薄まっています。かわっている者にとっても、たまには振り返ってみて、その頃の気持ちやエネルギーを思い出すことは必要なかもしれません。研修を経て認定されたメンバーが新しく仲間に加わることになったのを機に、25年前を掛け合いで語ったのは、冒険遊び場プレーパークの元祖リーダーとも言えるべき天野秀昭さん、そして「世田谷こどもいのちのネットワーク」のスタッフをいまだに続けている私、星野弥生です。テーマは、「そもそもチャイルドラインはどうやって生まれたのか」というお話です。

世田谷におけるチャイルドラインは、電話ありきで始まったものではないですね。世田谷ボランティア協会の理事長であった故

牟田悌三さん^{むたていぞう}が文部省の中央教育審議会の専門委員となった時に、子どもの現場に身をおいている区内のグループや個人から子どもたちの実情について訊きたいと考え、何人かが牟田さんのまわりに集まりました。中心になったのは、世田谷区内で若者たちの「居場所」青生舎の活動を行っていた、教育ジャーナリストの保坂展人さん^{ほさかあきひと}（現世田谷区長）、児童館の澤畑勉さん^{さわはたつとむ}、プレーパークの天野さんたちでした。

せっかくの機会だからと、保坂さんはさまざまなグループに呼びかけてネットワークを作ることを提案。1996年1月に発足したのが「世田谷こどもいのちのネットワーク」でした。こどもがいじめに悩み、苦しんで自らのいのちを絶つ、という痛ましい事件が全国で起こっていた頃でした。世田谷という地域の中で、こどもたちのいのちをなんとか繋ぎ止めたい、と、親も学校の教師も行政も、お

互いを非難するのではなく、子どもを真ん中につながり合おう、という意志を表したのが「いじめよ、とまれ!」というスローガンでした。千歳船橋にあったボランティアセンターの会議室は、実行委員会を重ねるごとに人がどんどん増えて狭くなっていました。

生き方を問われた大人たちが考えた

一年に三つのイベントをやる、



ロンドンのチャイルドラインにて
ジョン・ホールさんと5人組

という広大な計画を立て、一回目は用賀中学校の体育館に、区内にこんな「こどもの居場所」があるよ、と紹介するブースをたくさん並べ、親、教師、行政関係者、子どもたちが500人近く集まったと記憶しています。二回目は、イギリスでいじめに悩む子どもたちに、子ども自身が話をきくピア・カウンセリングを行っている中学校の子どもたちと教師を招き、いじめを止めるための一つの方法としての演劇を見せてもらったりもしました。

1997年1月に砧区民会館（現成城ホール）で行われた最後の回はシンポジウム「大人の生き方が問われている」。牟田悌三さんが、一年考えて来た結論です、と付けたタイトルでした。パネリストの一人、当時は衆議院議員になっていた保坂展人さんが子どもたちをサポートする具体的なシステムとして提案したのが、イギリスで実施されている「チャイルド

ライン」。電話を受ける大人が子どもの声に耳を傾ける24時間の子ども専用電話です。会場の参加者に、「世田谷でチャイルドラインのようなものを作ったら、ボランティアをしてみたいと思う方はいますか?」と投げかけると、50人以上の手があがったのでした。

「鉄は熱いうちに打て」とばかり、その年の連休には世田谷の「五人組」がロンドンに飛びました。牟田さん、保坂さん、澤畑さん、天野さん、私の5人は、大使館がアレンジしてくれたチャイルドライン研修プログラムを二日間、みっちり受け、全国規模で365日、24時間対応しているサービスの仕組み、年間6億円にも及ぶ予算の大きさに衝撃を受けました。規模は違っても、電話一台と受け手一人が基本ならば、世田谷での実施を追求してみようと気を取り直した私たちでした。

二週間の試行から常設へ

そして、頻繁なチャイルドライン企画運営委員会を経て、日本を訪問してくれたチャイルドラインのマネージャーであるジョン・ホールさんの「熱意があれば出来るよ」との言葉に背中を押され、二週間にわたる24時間チャイルドラインを試行したのが、25年前、1998年3月の出来事です。その翌年に実施した二回目の試行を経て、2000年6月1日にチャイルドラインは常設化されました。

もちろんイギリスのようではなく、当座は午後4時から10時まで、週7日を目指しましたが、だんだん実施日は減っていききました。大切にしたいのは、きちんと研修を受けて電話に出るボランティアを確保することです。一方で、同じ年にNPO法人「チャイルドライン支援センター」が立ち上がり、チャイルドラインは全国に広

まっっていくことになりました。牟田さんはこのセンターの代表にもなり、世田谷の実践は全国に波及していきました。

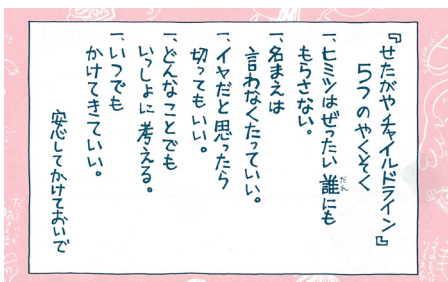
世田谷での試みを通じて、各地のチャイルドラインで共有されたことはいくつもあります。その一つが、「相談員」と言わずに「受け手」としたこと。子どもは必ずしも「相談」をするのではなく、誰かと話したい、つながっていたいから電話をかけてくることが圧倒的に多いということに私たちは気づきました。学校から戻り、一人になった時に「ただいま！ 今から遊びに行くよ」と一言話したいこともあるのです。だから「受け手」とすることで、子どもたちがより気軽に電話をかけられるのでは、と考えたのです。

そして、受け手が安心して電話を受けられるように、受け手が対応に迷う時に、そつと手を差しのべてくれる役どころである「支え手」はチャイルドラインを支える

大切な存在です。世田谷で決めた「五つの約束」（左記）はチャイルドラインの憲法のようなものの。これは電話を受けるガイドラインの基本中の基本であり続ています。

大人にとつての居場所

25年の間、いろいろな変化がありました。電話は全国共通のフリーダイヤル番号となり、子ども





せたがやチャイルドライン開設当初の様子
(1998年3月)

たちが料金を負担することはあり
ません。共通ダイヤルでは全国
からの電話を受けることになり
ます。電話よりもメールがいい、
ということもたちには、今では
チャットのサービスも提供されて
います。それも時代の反映です。
でも、子どもが「いま」いいたい
事を、明日に延ばさずに訴えられ
るというチャイルドラインの使命
は変わらないはず。

せたがやチャイルドラインが毎
年行っている公開講座、そして「受
け手」をめざす専修講座を受講す
る人の数が増えています。ボラン
ティアを志す方が多いのは、とて
も嬉しいことです。しかし、電話
を受け続けるというモチベーショ
ンを保っていくのが大変だとい
うのも事実です。

せたがやチャイルドラインの25
年の歴史が伝えることはなんなの
でしょうか。あの頃、新しいもの
を作っていくという一つの目標を
持っていた私たちにとって、チャ
イルドラインに集う仲間たちとの
場所、時間はある種の「居場所」
ではなかったか、という気がしま
す。安心していられる場所を、年
齢や立場と関係なく私たち大人も
求めているのです。

牟田さんが今も見守っている

世田谷こどもいのちネットワーク
の活動を通じて、「大人の生き

方が問われている」と断言された
牟田さんが、チャイルドライン支
援センターの代表理事を退任する
にあたって書かれたメッセージの
一部をふたたびかみしめてみたい
と思います。

「私の思い、人と人が愛し合い
支え合うのが当たり前な社会づく
りを目指そうという思いは、残り
の時間が無くなつたいま、激しさ
を増してきた気がします。チャイ
ルドラインの目指すところは、い
まこの社会にとつて最も本質的な
主張であることは疑いの余地はあ
りません。みなさんの活動がもつ
と多くの人びとにひろがるよう御
奮闘お願いします。私も生きてい
る限り、みなさんのご活躍を見
守っておりますよ。」

牟田さんが見守る中で、「こど
も」「いのち」を真ん中にするチャ
イルドラインの活動を続けよう
と、かかわるみんなが誓ったのが、
25年のお祝いの日だったような気
がしています。

文責／せたがやチャイルドライン運営委員 星野弥生



"社会が夢を育て、
夢が人を育てる"
NPO 法人ユメソダテ

まちの 市民力!!

取材・市川 徹

●
街の中で地域やそこで暮らす
人たちと一緒に活動している
団体を紹介します



理事長の前川哲哉さん

世田谷区立桜丘農業広場にある「夢育て農園」。毎週木曜、ここで知的・発達障害のある方々が支援者と一緒に畑作業を行っています。(写真右) 畑作業をすることで、当事者の認知・身体機能を高めることができるそうです。この取り組みを行っているのがNPO法人ユメソダテ。今回、理事長の前川哲哉さんにお話を伺いました。

NPO 法人ユメソダテは2018年に設立。きっかけは、前川さんのお子さんが知的障害があること。彼の自立生活に悩み、様々な方々にお話を伺う中で、当事者が自らの「夢」を楽しむように生き生きと語る場面に出会い、衝

撃を受けたそうです。そして夢を語る方々は家族や友人など多くの大人と豊かな人間関係ができていくことに気づきます。「社会が夢を育て、夢が人を育てる」と気づいた瞬間だったと言います。これをきっかけに、障害があってもなくても「社会が夢を育て、夢が人を育て、人が社会を照らす循環」の実現を目指し、この理念に共感した仲間とともに団体を立ち上げました。まずは当事者が自立して生活できるよう、硬貨計算を手助けするツール「夢育てコインケース」など当事者向けの知育教材の開発に取り組みました。そして、昨年念願の畑を借りることができたため、軽体操・座学・農

作業を組み合わせて認知・身体機能を高める私塾「人を育てる畑コース」を開講するに至りました。現在第2期目を開講中ですが、継続して受講する方もいるなど反応は上々とのこと。いずれは、より参加しやすくするため土日開講や奨学金の創設を目指したい。そして、当事者に対する見方を変えていくためにも、このモデルを経済的に持続可能な形にしたい、各地に広めたいと前川さんの夢は広がります。

知的・発達障害のある方の多くは、特別支援学校卒業とともに学びを辞めてしまうとのこと。しかし、多くの当事者は、環境さえ整えば学校卒業後も成長を続けられると言います。前川さん曰く、「一度しかない人生、諦めるには18歳は早すぎます」。夢を持つことは障害あるなし関係なく誰にとっても大切なこと。それは社会によって育まれ、人生の原動力になることを改めて感じました。



NPO 法人ユメソダテ
<https://yume-sodate.com/>
info@yume-sodate.com



自分にできることを無理なく

竹中 信子さん
たけなか のぶこ

や
せた人が
キラリ

世田谷を中心に活躍する
キラリと光る素敵なたを
ご紹介しします
取材●高居 真夕子



代々木公園通り沿いの一角で、主に路上生活者への支援活動「アクションフォーホームレス」の中心メンバーとして取り組む竹中信子さんにお話を伺いました。

毎週金曜日、自家用車に、自宅の一室で保管している衣類や寄付でもらった食品類、そして来た方に配るためのコーヒーや紅茶といった温かい飲み物をジャグに淹れて用意し準備万端、お昼過ぎに代々木公園へ向かいます。公園に着くと、続々と集まる方々へ丁寧にあいさつをする竹中さん。「あれ、今日お孫ちゃん一緒にやないの?」「今日は天気がいいねえ」来る人来る人から気さくに声をか

けられる姿から、みなさんとの温かいつながりを感じました。

竹中さんは、ご友人から10年ほど前に配達のお手伝いを頼まれたことを機に、関わるようになりまし。そして、現在に至るまでは欠かさずに活動を続けています。「毎週続けていると、顔見知りになり、いつしかみんなと友達のようになっていくのね。金曜日になると彼らに会える。わたしにとっても1週間の終わりに気持ちのリフレッシュさせてもらえるの」と、嬉しそうに話す竹中さん。そんな竹中さんの生まれは北海道釧路市。お父さまは雄別炭鉱で働いていました。札幌市の短大美

術科を卒業後、デザイン学校への進学を機に上京。上京後は学生運動に参加するなど楽しい青春時代を経て、都内のデザイン事務所に就職、長くデザイン関係の仕事を続けてきました。結婚、子育てを経験し、生活が落ち着いた頃に仕事をセーブして、ボランティアな活動を始めるようになりました。

デザインの仕事を生かした活動も。年1回作品のプロアマを問わないアート雑誌「Bamboo」を自主制作し配布されています。色々な方から作品を集め、中にはアクションフォーホームレスで知り合った方が参加されたことも。

最後に、竹中さんは自身の人生には満州からの引揚者である両親の存在が大きいとおっしゃいます。お母さまに幼い頃から教えられたという「戦争だけは絶対にしてはならない」「困っている人がいたら必ず助けること」は、対人の関わりを大切にされる竹中さんの原点が垣間見えました。



アクションフォーホームレスの活動に関心のある方は
下記にお問合せください
artbookbamboo52@yahoo.co.jp

ご相談ください

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ご相談ください。

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生・高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。現在は、新型コロナウイルス感染症防止のため、オンラインでの学

電話でお話ししながら、どんなことができるのか、どんな解決方法があるかを一緒に考えます。
●問合せ／世田谷ボランティアセンター
TEL 5712・5101

習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学習ポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっています。お気軽にご相談ください。
●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 高居・原口
TEL 5712・5101
takai@otagaisama.or.jp

ボランティア求む

小 梅丘の70代女性の自宅でお手伝いいただける方募集

梅丘1丁目にお住まいの70代女性が、掃除など身の回りのことのお手伝いをしてくださる方を求めています。ボランティアの方には、簡単な掃除や時々書類や手紙の代筆をお願いしたいです。また、近くへ一緒に買い物へ行き、帰宅後に果物のカットなどもしていたけると有難いです。女性は脳性まひの障がいをお持ちで、数年前にケガを負ったこともあり車いすを利用してします。普段はヘルパーさんの援助などを受けながら暮

らしています。女性とお話を楽しみながら協力して下さる方、お問合せお待ちしております。
●日時／第1金曜日の午前中2～3時間程度
●場所／自宅（梅丘1丁目）及び周辺
●条件／長期間活動が続けられる女性
●問合せ／北沢ボランティアビューロー 担当 石川
TEL 3420・2520
kitabori@otagaisama.or.jp

小 小1男の子のクラブ活動を見守ってくださる方募集

4月に小学校に入学した男の子は注意力が少し散漫になる事があるためクラブのコーチから活動に慣れるまで保護者が交替で見守りをするように言われています。お母さんが見守りできる時は行っていますが、在宅で仕事をしているため、毎回1時間の見守りをするのが難しい状況です。30分でも見守りや声かけなどのお手伝いをして頂けると助かります。

●日時／水曜日 15時半～17時の1時間以内（時間は応相談）
●場所／成城学園前駅から徒歩10分程度の小学校の体育館
●条件／子どもに関わるのが好きな女性
●問合せ／砧ボランティアビューロー 準備室
TEL 6411・4007
kinutabara@otagaisama.or.jp

小

作成した布をバッグ等に成形する ボランティアを募集しています

千歳台福祉園は、主に知的に障害をお持ちの方が通われている施設です。施設の活動の中では、スウェーデン刺繍や機織りを行い、作成した刺繍布等をバッグ等に成形して販売しています。職員がすべてをバッグ等にしていくには限りがあるので、加工をお手伝いして下さる方を募集します。材料代はこちらで負担いたします。ご興味を持っていただけましたら、ご連絡お待ちしております。

●日時／応相談

●場所／千歳台福祉園（世田谷区千歳台3-31-9）

●交通／千歳船橋駅から京王バス千歳烏山行き廻沢下車すぐ

●問合せ／世田谷区立千歳台福祉園 担当 小泉・鈴木

TEL 3789・9801
chitoseda@henisoon.ne.jp

京

絵を描く時のボランティア募集

ALS（筋萎縮性側索硬化症）で72歳女性の方が絵を描くときにお手伝いをしてくださる方を募集しています。なお、ボランティアの方に、絵具を説いたパレットの中にご本人の手を浸し、その手を画用紙に押し付けてもらうという手法で描いています。

●日時／第1・第3土曜日14時から1時間〜1時間半程度

●場所／自宅（世田谷区北烏山）
●問合せ／烏山ボランティアビューロー

TEL 6909・0333
karasubora@otagaisama.or.jp

東

学校に行くことが苦手な女の子と 一緒に過ごしてくれるお姉さん募集

学校に行くことが苦手な女の子が平日は高校へ行かずに室内で過ごしており、一緒に過ごしてくれるお姉さんを探しています。話すことが大好きな明るい女の子で、寄り添って話を聞いてくれる方を希望します。プリキュアやアイカツが大好きなのでアニメの話をしてもらったり、UNO・トラップなどをして遊んで頂けたらうれしいです。詳しくはお問合せください。

●日時／平日10時から17時の間で1〜2時間（曜日・時間は応相談、月2回からでも可）

●場所／世田谷区弦巻

●条件／女性 子どもが好きな大中学生くらいのお姉さん、交通費支給（上限あり）

●問合せ／玉川ボランティアビューロー

TEL 3707・3528
tamabora@otagaisama.or.jp

京

買い物や外食に付き添ってくださる ボランティア募集

ひとりぐらしで、視力・歩行に障害のある男性が買い物や外食に付き添ってくださるボランティアの方を募集しています。詳細は、お問い合わせください。

●日時／月々金曜日14時〜17時（曜日要相談）月1〜2回程度

●場所／主に京王線仙川駅周辺

●条件／交通費と食事代は負担します

●問合せ／烏山ボランティアビューロー

TEL 6909・0333
karasubora@otagaisama.or.jp

「セボネ」は皆様の声を集めて制作しています。ボランティア募集、イベントなど情報をお寄せください。ホームページから情報を投稿できます。

有償スタッフ募集

東 目の不自由な方の夕食作りをしてくれる女性募集

東玉川にお住まいの目の不自由な80代の女性が、夕食作りをしてくれる女性を探しています。今は全く目が見えなくなっています、困っています。金曜日から土曜日の夕方の時間帯にお願いしたいです。ネットショッピングもできる方ですと助かります。女性の方のご応募お待ちしております。

- 日時／金曜日から土曜日17時～19時
- 場所／東玉川の自宅
- 交通／田園調布駅徒歩15分
- 条件／1230円/時、緊急介護人の登録
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー
- TEL 3707・3528
- tamabora@otagaisama.or.jp

講座・その他・募集

小 もとと語ろう不登校 Part 278

これまで27年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お話し合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

- 日時／6月10日（土）14時～
- 場所／NPOフリースクール僕

んち（代田4・32・17）またはZOOM会議にて

- 交通／梅ヶ丘駅徒歩10分
- 条件／事前申し込み制
- 問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もとと語ろう不登校」担当 高橋 090・3905・8124

tsbtoru@yahoo.co.jp

東 災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編）@昭和女子大学

2023年度1回目となる「災害ボランティアコーディネーター養成講座基礎編」を昭和女子大学にて開催します！内容は講義・模擬訓練、世田谷区の災害対策・災害ボランティアの活動内容（世田谷方式）等学びます。

- 日時／6月10日（土）13時30分～16時30分※13時より受付開始
- 会場／昭和女子大学1号館4階（世田谷区太子堂1-7-57）
- 交通／三軒茶屋駅徒歩7分
- 参加費／無料
- 申込／5月2日（火）～6月8日（木）までに、せたがや災害ボランティアセンターHP内の専用フォーム、またはメールか電話にてお申し込みください。
- 問合せ／せたがや災害ボランティアセンター
- TEL 5712・5101
- saiga-info@otagaisama.or.jp

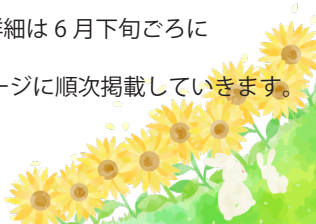
東 傾聴ボランティア講座（全5回）@玉川ボランティアビューロー

個人の方と対面で継続的に行う傾聴ボランティア活動のための講座です。話すこと・聴くことを体験学習（ワークやロールプレイなど）を通して、グループで考え、感じながら学んでいきます。あなたも、傾聴ボランティア活動への一歩を踏み出してみませんか？

- 日時／6月14日、21日、28日、7月5日、12日（毎週水）13時半～16時半
- 場所／玉川ボランティアビューロー
- 交通／二子玉川駅徒歩5分
- 参加費／8000円
- 条件／電話・FAX、メールは件名「傾聴ボランティア講座」で①氏名②住所③連絡先④年齢（代）⑤何を見てを記載
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー
- TEL 3707・3528
- tamabora@otagaisama.or.jp

夏のボランティア体験 ナツボラ & ナツボラ・ジュニア 開催決定！！

詳細は6月下旬ごろに
ホームページに順次掲載していきます。



「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したA-Iシステムによるマッチングサイト（世田谷版GBER）で結び付け、ボランティア活動を支援します。

A-Iシステムによるマッチングサイトのお知らせ

詳細は左記QRコードからご覧ください。



ミニレポート

「烏山もったいないバザール」 大盛況でした！



5月14日（日）、烏山区民センター前広場で、烏山もったいないバザールを開催しました！19団体、3バンドが参加して、バザーと飲食コーナー、音楽ありと、コロナ禍以前のスタイルで行い、開始直後から大盛り上がり！

スタートして間もなく雨が降り始めてしまいましたが、バンドがOver The Rainbowを演奏してから奇跡的に雨がやみ、最後まで楽しく開催することができました。

お越しくくださった方、参加団体、ボランティアのみなさま、近隣住民のみなさまに感謝申し上げます。

<参加団体>（順不同）

あかね会、らくた&こども食堂でこぼこ、せたがや災害ボランティアの会、烏山福祉作業所 BB cafe、年金者組合烏山分会、せたがや子育てネット おでかけひろばブリッジ@roka、NPO 法人総合鑑定学協会、世田谷区スポーツ推進委員協議会烏山地域会、おもちゃライブラリー DUO、岡本福祉作業ホーム、ころころ食堂、コミュニティカフェなつこのこ、実家なんとかし隊、ウッドベッカーの森、世田谷ボランティア協会（パートナーセンター、烏山ボランティアビューロー、せたがや災害ボランティアセンター、せたがやチャイルドライン）

<コンサート>

MASUMI'S STADIUM、SNOW BOUND、名もなきバンド

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 北沢ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 烏山ボランティアビューロー 〒157-0065 上祖師谷1-11-14 TEL (6909)0333 FAX (6909)0355
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888

●日ごろの備えが災害時の力になる●

- せたがや災害ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811

●いのちを大切にすると「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

●障害にとまなう「困った!」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6804)0405
- スペース ココカラ。(ぽーとせたがや・パートナーセンター) 〒154-0002 太子堂4-26-9 TEL (6804)0405

●でんわだから、はなせるネ! 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)
*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

拠点は今… 今月のおススメ!

◆センター&ビューローより

6月10日(土)に「災害ボランティアコーディネーター養成講座(基礎編)@昭和女子大学」、6月14日(水)から傾聴ボランティア講座が始まります。詳細はP.10-11をご覧ください。

◆ふらっと& with より

気付けばもう半年を迎えます。街を歩けば春から梅雨の装いに移り変わり、「今日はどこへ行こうか?」と嬉しい悩みが絶えません。夏に向け少しずつ体調も準備をしていきたいと思います。

◆結・連より

介助を必要としている人がいます! 世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です!

◆チャイルドラインより

「せたがやチャイルドライン公開講座」が始まっています。単発受講もできますので、世田谷ボランティア協会のせたがやチャイルドライン専用ホームページからお申し込みください。

編集後記

■せたがやチャイルドラインが始まって25周年が経ちました。記事に使用する写真を探していると、まだ読んだことがない開設当初のメモや記事も見つけました。それらを読んでいるとあつという間に時間が過ぎてしまいましたが、たくさんあるので時間を見つけて目を通して見ようと思います。

■あつという間に半年が過ぎてしまいました。これから梅雨に入りますが、アジサイの写真を撮りに出かけようと思います。(近藤)

- 発行
社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
〒154-0002
世田谷区下馬2-20-14
TEL 03-5712-5101
FAX 03-3410-3811
- E-MAIL
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人
横山 康博

